

スーパー堤防に代わる強化堤防「アーマー・レビー」工法等（住民の犠牲を伴わず、しかも約1割程度の安価で出来る強化工法）の採用を求める陳情

（建設委員会付託）

受理番号 第44号

受理年月日 令和2年6月3日

付託年月日 令和2年6月25日

陳情者 . . . . .  
. . . . .

陳情原文 スーパー堤防構想の矛盾が大きくなってきています。それは、整備スケジュールを示せない（河川管理者が独自に決められない）。該当住民を強制的に追い立て、問題を引き起こしている。台風19号の災害や鬼怒川決壊で見られたように、完成まで何百年もかかるスーパー堤防より、喫緊の課題が全国にある、等々です。

さらに本事業は、事業計画地の住民に犠牲を強いる事業です。このスーパー堤防は住宅地側の裏法面を堤防の高さの30倍まで拡げるため、その範囲にある建物や公共物まですべて取り壊されます。従前の街も歴史もコミュニティもすべて壊され、戻る人も半減しているのが実態です。

加えて堤防は老朽化するものであり、これまで改修・改良がなされ、治水上の理由からも堤防の上には建物を建ててはいけない、とされてきました。スーパー堤防だけはそれが認められ、結果的にメンテナンスがきかなくなり、逆に安全性が保たれるのかどうか危惧だけがのこります。

このように、住民の犠牲の上にたち、莫大な費用と時間をかけ、効果も算出できないスーパー堤防は中止して、住民の犠牲を伴わない、しかも安価な「アーマー・レビー」工法等の採用による堤防強化の検討を求めます。浸透水対策として法面の接続ブロックと法尻からの崩落を防ぐ重しを入れた「ふとんかご」の併用を提案します。行政が区民の安全・安心を唱えるなら、費用対効果の総合判断の上、そしてなにより住民に対する安心を考慮した検討を求めるものです。

つきましては、下記のとおり陳情いたします。

#### 記

広範な盛土をするため、住民に立ち退きを迫り、街のコミュニティを壊すスーパー堤防事業は中止し、アーマー・レビー等の採用を求めます。